



日本文化を広めることが使命 社員一人ひとりが光り輝ける企業へ



里崎 まずは、野村社長が起業を意識し始めた経緯からお聞かせください。

野村 私は19歳のとき、バイク事故で意識不明の重傷を負いました。幸い後遺症もなく回復したのですが、それ以降、この命を有効に使いたいと考えようになったんです。それから起業への意識が芽生え、22歳のときに中国でカフェバーの経営を始めました。ただ、お店は何とか軌道に乗せられたものの、きちんとした形でビジネスを学ぶ必要があると感じ、帰国してメーカーの営業職のキャリアを5年ほど積んだんです。そして満を持して2016年、日本の文化を広める仕事を興したいと考えて起業しました。

里崎 生死の境を彷徨ったことが、その後の行動力につながったんですね。ちなみに、会社名にはどういった由来が？

野村 INTERは「つなぐ」、BLUEは「海」を示し、陸と陸をつなぐ大海のような役割を果たす、という意味を込めました。事業としては今はイベント関連がメインですが、最終的に3つの基幹事業を育てたいと思っています。1つ目はセールスプロモーション事業で、2つ目はデザイン事業。営業力とデザイン力を合わせて、新たなビジネスの形を生み出せたらと。

里崎 確かに相乗効果がありそうです。

INTER BLUE 株式会社

〒153-0043
東京都目黒区東山 1-6-7
FORUM 中目黒 7F
TEL 03-4405-9368 / FAX 03-4405-9369
URL <http://interblue.co.jp/>
MAIL ib@interblue.co.jp

Company data

代表取締役 野村 慧一郎

神奈川県出身。19歳のときに交通事故で重体となる。その後、「日本の文化を広めたい」と考えるようになり、大学在学中、中国で日本式飲食業を興す。帰国して飲料水メーカーの営業部長を勤めた後、2016年に2度目の起業を果たした。



sample

野村 もう1つはまだ構想段階ですが、次世代が将来の日本社会に希望を持てる活動をしたいと思っています。例えば日本特有の商材を発掘し、世界に向けて発信するなどですね。

こうして「日本の文化を広める」という軸に沿う形で、社員皆が新たな経済活動を生み出せる会社になりたいと考えています。デザインや営業のスキルを磨いたり、ニュービジネスを生み出したり。各々が自身の個性に合わせた事業を展開し、将来的にはそれらをホールディングス化できたらと考えているんです。もちろん、現時点で弊社はスタートラインに立ったばかり。先は未知数ですし、時には失敗もあるかもしれませんが――。

里崎 失敗は経験になりますし、そこから学んで成功すれば成功体験と呼べるはず。また、僕は今の自分にできるこ

とを精一杯やれば、その経験を吸収した「未来の自分」に期待できると考えているので、プレッシャーや不安を感じることもないんです。会社も同様だと思いますが、やりたいことさえあれば、あとは一心に進むのみですね。その点、御社はやりたいことと軸がしっかりあるので、今後が本当に楽しみだと感じます。

野村 そんな風に言ってもらえると、とても嬉しいです。弊社では「活動理念」を設けていますが、経営理念でないのは、社員全員が考え実行するものだからです。掲げているのは、「文化敷衍」「人間尊重」「活気横溢」。敷衍は押し広げるといふ意、活気横溢には若い人に輝いてほしいとの意味を込めました。私は、出る杭は打たず、引っこばきたいくらいの気持ちでいるんです。この先も、多くの人に魅力を感じて頂ける会社にしていきたいですね。



sample

Guest Comment 里崎 智也 (野球評論家)

野村社長はスポーツバーの運営やアスリートのセカンドキャリア支援など、スポーツ文化を支える事業への参入も考えておられます。元アスリートの1人として、ぜひその活動を応援したいです！個々の想いを尊重しつつ、事業軸がしっかりしているだけに、こちらの会社の未来は明るいと確信しました。



▲ INTER BLUE で活躍する社員たち